

令和5年度第2回廃棄物減量等推進審議会（会議概要）

令和6年3月13日（水）
鶴岡市ごみ焼却施設研修室

（午後1時56分）

1. 開 会

2. 会長挨拶【小谷会長】

（審議会成立）

委員17名のうち現在13名の出席で委員の半数以上が出席しており、鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項の規定により会議開催が成立。

3. 報 告

（1）鶴岡市ごみ焼却施設愛称決定について「つるおかエコファイア」

（2）ペットボトルの水平リサイクル「ボトル to ボトル」について

資料に基づき事務局説明

<質疑応答> 特になし

4. 議事

鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第1項の規定により、会議の議長を会長とする。

（1）令和6年度鶴岡市一般廃棄物処理実施計画（案）について

（2）令和6年度鶴岡市廃棄物行政の事業執行について

資料に基づき事務局説明

<質疑応答>

【委員】

環境保全推進員という仕組みがありますが、自治会と環境保全推進員との関わりはほとんどありません。毎年自治会で推薦はしていますが、自治会の役員と環境保全推進員の連携がありません。鶴岡全体で、環境保全推進員は相当数いると思いますが、ここをもっとかみ合わせるというか、ただ言葉で連携というのではなく、自治会の活動の中で環境保全推進員が少しでも仕事ができるような形で対処できないのかなと思います。

これは我々地域の課題でもあると思います。単純に年1回研修会に出ればいいのかと、簡単な形で推進員を決めてしまっているのが反省しなければいけませんが、もう少し環境保全推進員の動きを取れるようにすれば、地域での機運が高まると思

います。パンフレットを配っただけでは、絶対結果は出せないだろうなと思いますし、対応の仕方を少し強化してもらいたいと思います。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。

確かに年1回の研修会は実施しておりますが、自治会と、推進員と、地域とが連携できる形で、地域の機運が高まる取組を進めていきたいと思います。

大変参考になるご意見、ありがとうございます。

【委員】

環境保全推進員については、ついこの間、市の方から調査票がきましたが、それを見ると環境保全推進員の活動が推測できます。うちの町内会では、衛生部長がその任を受け持っていますが、最終的にはごみステーションの管理等は町内会の責任なので、うまくやっていこうということを伝えています。

非常に、市の方としてもいいシステムだろうとは思いますが。報酬もいただいているので、その人たちも頑張っていけないと感じ取っていると思いますし、最終的にはその人たちからそれ以上の力を発揮していただくためには、町内会がその人たちともう少し深く、お互いの情報交換することが大切なことではないかと思っています。

【委員】

市全体で、どのくらいの人数が環境保全推進員になっているのでしょうか。

【事務局】

390名です。

【事務局】

先ほどお話があったように、ごみステーションや地域の環境についてご尽力をいただいております。

ごみ出しや分別が容易でない方については、地域の方、推進員さんから頑張っているのを認識しておりますので、引き続き、地域の皆様と連携して、ごみの分別や環境整備にご尽力いただければと思っています。

【委員】

先ほどの説明の中でも、サンプル調査の結果、約3割を減量や資源化が可能なごみが占めているということでしたが、推進員と地域が一体化しているところであればいいのですが、もう少し自治会や町内会なりと環境保全推進員が密に連携していないと伝わっていかないだろうなと思います。

ただ1年、2年のあて職で終わってしまうこともありますので、その辺の取組を強化する策を練った方がいいと思います。

【委員】

令和5年度の見込みを見ますと、570gという数字がありますが、近年になく（ごみ排出量が）下降に転じています。これは日ごろから、町内会ごとの説明会や、環

境フェアでの説明会など、様々な要因はあると思いますが、一番大きな要因があればお知らせいただきたい。

【事務局】

令和5年度はごみの排出量ベースでも、1人1日当たりベースでも大きく減少する見込みとなっております。

この原因というのは、はっきりしたことは申し上げられないのですが、例えば報道等では、ウクライナ情勢に伴って物価が高騰し、それに伴って、食費に充てるお金が少なくなったという報道もなされておりますので、例えば食品ロスをなるべく出さないようにしたなど、そういった物価高騰を背景とした消費者行動の変化などが考えられるかと思います。

また、昨年5月10日から新型コロナウイルスが5類に移行になりました。その関係で、家で過ごす時間が減って、それまでは家で過ごしていたので、家から出るごみも多かったけれども、それが出なくなったというようなこともあると推測しております。

【委員】

計画そのものは大体この案でいいかなと思います。

やっぱり減量というのは、自治会の人たちが見に来て、これではだめなんだと自分達で考えることが必要なのかなと思います。推進員だけではなくて、自治会や集落など、いろんな団体がごみ焼却施設やくるりん館にきて、自分達で考えることが必要なのかなと思います。

小学校でもくるりん館やごみ焼却施設に見学に来ているようですので、それはいいことだと思いますが、中学校や高校に行くと忘れてしまいます。私たちもこの間くるりん館を見学しましたが、何回も見学すると、その都度違う見方があると思います。

各集落や地区で見学に来て、頑張らないといけないと思うことで、少しずつごみが減ってくると思います。3割もリサイクルできるごみがもやすごみに入っているということは、もう少し分ける工夫や勉強も必要だと思います。

（３）鶴岡市指定ごみ袋の色の変更について

資料に基づき事務局説明

＜質疑応答＞

【委員】

スプレー缶やカセットボンベを来年の1月から青（色袋排出）ではなくするということですが、今回の説明では、令和7年秋から青色の袋は透明になるようです。スプレー缶やカセットボンベの袋はどういうものを考えているのでしょうか。同じ透明だと混ざる心配があるかと思います。

【事務局】

蛍光管・乾電池等の収集は月1回あります。その時に、スプレー缶やカセットボ

ンベを透明な袋に入れて一緒に出していただく考えでおります。

青色袋とは収集日が違います。今までどおり青色袋は月2回収集し、蛍光管・乾電池等は月1回収集します。その蛍光管・乾電池等の日に一緒に、違う袋で、スプレー缶やカセットボンベを出していただきたいと思っております。

【委員】

家庭では、青やピンクなど袋を分けて置いていますが、同じ透明の袋だと混ざらないのかなという心配です。

【事務局】

金属・その他の袋については、青の文字表示をしたり、帯を入れたりしますので、まったくの透明とは区別ができるデザインを今後詰めさせていただきたいと思えます。

【委員】

スプレー缶等を出す際の指定の袋はないわけですが、スーパーの袋などでもいいのでしょうか。まったく透明でないといけなくなると、袋が透明でないので収集してくれないということが出てくると思うが、そのあたりはどのように周知していくのでしょうか。

【事務局】

必ずしも市販のものでなくてもいいので、たとえば透明なお菓子の袋など、中が見えるものにライターや乾電池などを入れてもらえれば構いません。

周知も皆様にご不便をかけない形で考えさせていただきます。

【委員】

ライターと電池と蛍光管は、全部一緒の袋に入れていいのでしょうか。全部分別しなければいけないのでしょうか。

【事務局】

ライター・スプレー・カセットボンベなど爆発のおそれがあるものは分けてください。それと、乾電池と蛍光管、この3つくらいに分けていただきたいです。

【委員】

ライターやカセットボンベなどは穴を開けずにとのことですが、確認としては出なくなったことを確認すればいいのでしょうか。ライターもつかなくなればいいのでしょうか。

【事務局】

その程度で構いません。

【委員】

前も言いましたが、各町内会で、ごみステーションに看板をつけています。これを全部書き換えとなると、だいぶお金がかかりますが、各町内会で持つことになる

のでしょうか。何らかの補助はないのでしょうか。

【事務局】

市の方で作っているものとは別に、自治会でも作っているということでしょうか。
変更がわかるものとして、ラミネートで掲示できるものはご提供できるかと思
います。

【委員】

それでも助かります。一定期間は使えるので。

【事務局】

程度が今わからないものですから、推進員さんともお話して認識を共有し、内容
を確認しながら進めさせていただきたいと思います。

【委員】

大東町東では、5箇所あるので昨年度に5枚作りました。1枚作るのに7,000円
かかりました。デザインも込みだと1万円くらいかかると思います。素材はスチ
ールです。

【事務局】

その辺を確認させていただければと思います。

【委員】

高齢化等への対応ということで、ごみ出し困難世帯へのごみ出しの支援をする
という項目がありますが、具体的にどうしているかを考えていらっしゃいますか。

【事務局】

令和5年度から、高齢者等のごみ出し支援の補助ということで、ごみステー
ションまで自分でごみを出すことが困難な世帯を支援するために、ごみ出し支援を町内
会等の団体で開始をする時に最初の年度に5,000円を補助する制度を開始して
おります。

また、ごみ出し困難世帯のごみを、ヘルパーさんなどが手伝って捨てている
ケースがありますが、なかなか朝はヘルパーさんが混みあってごみを出せない
ケースがございます。例えば、網しかないようなステーションや、木の枠だけ
があって網が被せられているステーションでは、前日などにごみを出されると、
動物などから荒らされてしまいます。そこで、箱型のごみステーションを新
しく導入していただくことで、動物から荒らされないようなごみステーション
を整備し、ヘルパーさんや親族が、町内会等から納得をいただいたうえで、
ごみ収集日の前日などからごみを出せるようにして、ヘルパーさんや親族
のごみ出しを支援するという制度を令和5年度より導入しております。令和6
年度も同じ制度を続けていきたいと考えております。

【委員】

そういったごみは前日に出していいという解釈でよろしいですか。

【事務局】

ごみステーションの管理については、町内会より行っていただいております。そのため、まずはごみ出し困難世帯と町内会との協議で、前日に出してもいいと認めていただくことが前提となります。その中で、ごみが小動物に荒らされてしまうので、前日からのごみ出しは認められないというケースもあります。一方で、アンケート調査の結果、ごみステーションに扉を設けるなどして、小動物からごみを荒らされないようにして、困っている世帯の前日からのごみ出しを特別に認めたという事例もありましたので、そういったことができるように、市としても財政支援をしていくというのが、この制度でございます。

【委員】

この問題については、町内会単位や旧町村単位で話し合いをしていただいて、どうしても高齢化社会になった場合には、検討する必要があると思います。

高齢者に対するごみの取扱いを、もう一度町内会等をお願いするというのもそれはそれでやっていただきたいです。また、ステーションに何らかの方法を考えて、たとえばカセットボンベやライターはボックス的なものに入れてもらえば、市の方で回収日に持っていくなど、ちょっとした工夫で高齢者の問題も解決できるのではないかと思います。

事務局の方でも、具体的に考えていただくと、鶴岡が高齢者に対する先進的な取り組みを実施しているとなれば最高だと思います。勝手なことを申しましたが、考える余地はあると思います。

【委員】

ごみ出しが難しい方々の場合、介護施設に行っているとか、ヘルパーがついていることが多いようですので、その人たちをお願いしているということも聞きましたが、ヘルパーさんをお願いしてもいいものなののでしょうか。

【事務局】

実際にはヘルパーさんの時間帯もありまして、ヘルパーさんが当日に出せばいいのですが、ヘルパーさんが前日に出せないかなと町内会と協議していただいて、箱のステーションができれば、そこにヘルパーさんが前の日に出せるということも考えております。また、ヘルパーさんがついていなくても、高齢のためごみ出しが困難な世帯も救っていきたいと考えております。

【委員】

前から気になっていたのですが、町内にはアパートが増えました。そういう人たちはどうやってごみを出しているのかは心配です。鶴岡全体としてはうまくいっているのでしょうか。

【事務局】

特にアパートは町内会に入っていないところが多く、町内会のごみステーションを使っていると、非常にトラブルが多いです。アパート専用のステーションについては、不動産屋さんが指導をしていただいております。分別がよくなっていないの

は確かです。

【委員】

この問題は今後真剣に考えないといけないし、画一したことだけではなくて、こういうこともやっていたよというふうに、良い事例があれば紹介して、各町内会にお願いすることがいいかなと思うので、検討をお願いします。

5. その他

資料に基づき事務局説明

＜質疑応答＞ 特になし

6. 閉会